



最初にお読みください

CentreCOM® AR450Sリリースノート

この度は、CentreCOM AR450Sをお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、取扱説明書（J613-M3069-00 Rev.A）とコマンドリファレンス（J613-M3069-03 Rev.L）の補足や、ご使用前にご理解いただきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。

最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ファームウェアバージョン 2.9.2-01

2 本バージョンで修正された項目

ファームウェアバージョン 2.9.2-00 から 2.9.2-01 へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 2.1 TCP 脆弱性 (JVN/VU#943657) への対策を行いました。
- 2.2 本製品が、内部のシステムチェック処理によりリポートした際、ハングアップすることがありましたが、これを修正しました。
- 2.3 CREATE CONFIG コマンドを実行した時、作成されるコンフィグファイルのサイズによってはエラーが発生する場合がありますが、これを修正しました。
- 2.4 ごくまれに SNMP のメモリーリークが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 2.5 PPP ネゴシエーションにて、対向より LCP Configure-Reject パケットを受信した時に再送する LCP Configure-Request パケットを規定回数分送っていませんでしたが、これを修正しました。
- 2.6 BGP のルートマップ機能を設定している場合、ルート更新時にメモリーリークが発生することがありましたが、これを修正しました。
- 2.7 BGP 使用時、以下の BGP パケットを受信すると、不正なパケットを送出することがありましたが、これを修正しました。
 - ・ パス属性の拡張 Length 長が 1
 - ・ Length フィールドが 2 バイト
 - ・ Length 値が 255 以下
- 2.8 ファイアウォールおよびポリシーベースルーティングが設定されている場合に、ポリシーベースルーティングの対象通信であるにもかかわらず、TCP の RST/ACK パケットがポリシーと異なるインターフェースへ送出されてしまうことがありましたが、これを修正しました。

- 2.9 ファイアウォール機能において、TCP SYN アタック、DoS アタックを継続して受けた場合、例外発生ログを残さずにレポートする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 2.10 ファイアウォールポリシーからアクセスリストを削除する DELETE FIREWALL POLICY LIST コマンドを実行した際、そのアクセスリストを適用しているファイアウォールルールが削除されませんでした。削除されるように修正しました。
- 2.11 DHCP レンジ内の IP アドレスをある MAC アドレスに静的に割り当てようとした際、その MAC アドレスが他の IP アドレスに既に静的に割り当てられている場合、その IP アドレスをエラーメッセージ内に表示するように変更しました。
- 2.12 ISAKMP フェーズ 1 で使用する IKE 交換モードを AGGRESSIVE モードに設定し、ピアのアドレスを FQDN で設定すると、その FQDN から ISAKMP パケットを受信しても応答しませんでした。これを修正しました。
- 2.13 インターフェース以外のセクター情報が重複した IPsec ポリシーが存在する際、ISAKMP ハートビート機能や DPD 機能で対向機器がリンクダウンしていると判定された場合に、ISAKMP SA のみが削除され、関連する IPsec SA が削除されないことがありましたが、これを修正しました。

3 本バージョンでの制限事項・注意事項

ファームウェアバージョン 2.9.2-01 には、以下の制限事項や注意事項があります。


3.1 IP/ 経路制御 (BGP-4)

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP/ 経路制御 (BGP-4)」**

BGP による経路制御とルートマップ機能をそれぞれ使用する構成で、BGP のプレフィックスにルートマップが設定されていない場合、ルートマップ機能が正常に動作しません。

- MED (MULTI-EXIT DISCRIMINATOR) 属性が設定されたプレフィックスを含む最適な経路が複数追加される場合に、設定とは異なる MED 値を通知します。
- MED 属性が設定されたプレフィックスを含む最適な経路が変更または削除される場合に、設定とは異なる MED 値を通知します。

3.2 DNS リレー


 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「DNS リレー」**

DNS リレー機能有効時、下記条件のとき、クライアントからの名前解決要求に対してクライアントが指定したアドレスとは異なるアドレスで応答します。

- 2 つ以上の VLAN が設定されており、それぞれが異なる IP ネットワークに所属している
- DNS クライアントが、DNS サーバーのアドレスとして自身が所属していない VLAN の IP アドレスを指定している

これを回避するには、自身が所属している VLAN の IP アドレスを DNS サーバーとして設定してください。

3.3 IPv6

 **「コマンドリファレンス」 / 「IPv6」**


ガーベージコレクションタイマーが動作中の RIPng 経路は、新しいメトリック値を持つ経路情報を受信しても、タイマーが満了するまで経路情報を更新しません。

3.4 ファイアウォール

 **「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」**

- ファイアウォールにてリモート IP を指定せずにダブル NAT ルールを設定すると、ルーターがすべての Gratuitous ARP に対して応答してしまうため、Host にてアドレス重複を検出し、通信できないことがあります。
- ファイアウォールにて動的に IP アドレスが割り当てられるインターフェースを Public インターフェースとして設定した際、ルール NAT の GBLIP パラメーターに "0.0.0.0" を設定すると、NAT 後のソースアドレスが Public インターフェースの IP ではなく、"0.0.0.0" に変換されるためパケットを送信しません。

3.5 L2TP

 **「コマンドリファレンス」 / 「L2TP」**

- ADD L2TP USER コマンドで ACTION パラメーターに dnslookup を指定し、PREFIX パラメーターは未設定とした場合、設定を保存し、再起動するとコンフィグエラーになります。これを回避するには、再起動トリガーで ADD L2TP USER コマンドを再入力してください。
- L2TP トンネルを介し、ICMP host Unreachable となるパケットを 300pps を超えるレートで受信すると、受信エラーカウンターが増加し、L2TP トンネルが切断されます。

4 取扱説明書・コマンドリファレンスの補足・誤記訂正

取扱説明書 (J613-M3069-00 Rev.A) ・ コマンドリファレンス (J613-M3069-03 Rev.L) の補足事項です。

4.1 SET OSPF コマンド

 **「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「経路制御 (OSPF)」**

コマンドリファレンスに記載のパラメーターの説明について、以下のように訂正してお詫びします。

SET OSPF コマンド DEFROUTE パラメーター

【誤】 DEFROUTE: デフォルトルート (0.0.0.0) の AS 外部 LSA を生成し、AS 内に通知するかどうか。本パラメーターは ASBR として設定した (ASEXTERNAL=ON) 場合のみ有効。デフォルトは OFF

【正】 DEFROUTE: ASBR に手動でデフォルトルートを設定していない場合に、ASBR をデフォルトルート (0.0.0.0) とした AS 外部 LSA を ASBR 自身に生成させ、AS 内に通知するかどうか。本パラメーターは ASBR として設定した (ASEXTERNAL=ON) 場合のみ有効。デフォルトは OFF

4.2 リモートアクセス

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「運用・管理」 / 「ターミナルサービス」


ファイアウォール機能が有効なルーターに対して、Telnet 経由でマルチホーミングの設定を行うと、Telnet が切断されます。

4.3 IP フィルターのユニキャストアドレス指定

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「IP」 / 「IP フィルター」


IP フィルターにおいて、指定する IP アドレスとマスク長が一致していない場合 (IP アドレスが特定端末指定、マスクがネットワーク指定等になっている場合)、フィルタールールにマッチしません。

4.4 UPnP

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「UPnP」

UPnP において、同一ポート番号の TCP、UDP から自動ポートマッピングの要求が発生した場合、先に受信した方しかポートが開放されません。

4.5 UPnP ユニキャスト探索

 **参照** 「コマンドリファレンス」 / 「ファイアウォール」 / 「UPnP」

UPnP 機能が有効時、本製品のユニキャストアドレスを宛先 MAC アドレスに指定された SSDP パケットに応答しません。ENABLE IP MACDISPARITY コマンドを実行することで、当該の SSDP パケットに応答できるようになります。

5 取扱説明書とコマンドリファレンスについて

最新の取扱説明書 (J613-M3069-00 Rev.A) とコマンドリファレンス (J613-M3069-03 Rev.L) は弊社ホームページに掲載されています。

本リリースノートは、上記の取扱説明書とコマンドリファレンスに対応した内容になっていますので、お手持ちの取扱説明書、コマンドリファレンスが上記のものでない場合は、弊社 Web ページで最新の情報をご覧ください。

*パーテーション「J613-M3069-03 Rev.L」は、コマンドリファレンスの全ページ (左下) に入っています。

<http://www.allied-telesis.co.jp/>